電子データで編集する際は、記入欄を広げていただいて構いません。

第３号様式（第７条関係）

記入例（ステップアップ支援）

事 業 計 画 書

３ページ以内でご記入ください

実施する事業 対 数、 参加者数、場所等を記入してください。 主な選考の視点 「公益性」 「事業実現性」 「自立性」	**事業名**：「ことばと文化をこえてつながる地域防災交流事業」 市内に住む外国につながりのある住民やその他の地域住民を対象に、災害時に必要な知識を学びながら交流できる防災ワークショップを開催します。 前年度は、補助金を活用して外国につながりのある住民向けの生活情報交流会を開催しました。今年度は、その活動を通じて明らかになった防災に関する不安や地域住民とのつながりの不足という課題を踏まえ、外国につながりのある住民と地域住民が一緒に学び、交流する機会をつくります。 これまでの情報提供を中心とした活動に加え、地域の避難場所を確認するワークショップなどの体験型の活動を取り入れ、学んだ知識を実際の行動につなげられるよう事業内容の充実を図ります。 【対象者・参加者数・場所】 市内在住の外国につながりのある住民及び地域住民を対象に、市内公共施設で年４回、各回 20 人程度の参加を予定しています。 【実施日程】 4～5 月：企画、関係者との調整、参加者募集 6 月：災害時の行動について学ぶ講座（参加費 500 円） 8 月：やさしい日本語を使った防災交流会（参加費無料） 10 月：地域の避難場所を確認するワークショップ（参加費 500 円） 12 月：災害への備えを考える交流会（参加費無料） 1～2 月：活動の振り返り、成果の整理 3 月：実績報告書の作成 ワークショップでは、図や写真、やさしい日本語などを活用し、日本語に不慣れな人でも参加しやすいよう工夫します。 誰を対象に 何を行う 活動の拡充・次の一歩 どこで、何回、人数	【記入のヒント】 ●事業名は何を目的とした事業かが伝わる名称にしてください。 ●ステップアップ支援を受けようとする団体は、これまでの活動を踏まえ、これまで行ってきた活動の何をどのように拡充するのか、または、活動の発展に向けた次の一歩として何に新たに取り組むのか、あわせて記入してください。 また、工夫した点や補助回数が２回目以降の団体は前回からの改善点なども記入してください。 ・誰を対象に、いつ、どこで、何回実施する？ ・参加予定人数は？ ・初めての人でも参加しやすい内容？ ・これまでの活動の何を継続し、新しく何を加える
事業の背景について 主な選考の視点 「公益性」 課題	当団体では、前年度の補助事業を活用し、外国につながりのある住民を対象とした生活情報交流会を開催しました。 交流会では、ごみの出し方や公共施設の利用方法など、地域で生活する上で必要な情報を共有し、参加者同士の交流を深めることができた一方で、参加者からは「災害が起きたときにどこへ避難すればよいか分からない」「近所に相談できる人がいない」といった声が寄せられました。 また、外国につながりのある住民同士の交流が中心となったため、地域の日本人住民とのつながりを十分につくることができませんでした。 そこで、前年度の活動で明らかになった課題を踏まえ、防災をテーマに地域住民同士が学び、交流する機会が必要であると考えました。	【記入のヒント】 事業を実施しようと考えたきっかけや経緯、地域の現状や課題について、具体的に記入してください。 現状

実現したいこと、目指す状態

どのような変化

どのような一歩

事業の目的や効果について

※「効果」についてはこの事業を通じて人やまちにどのような「げんき」を届けたいか、また実現したい「げんき」をどのように確かめるかを記入してください。

主な選考の視点
「公益性」

【事業の目的】

外国につながりのある住民が、災害時に必要な情報や避難行動について理解を深めるとともに、地域住民との交流を通じて、互いに声をかけ合い、助け合える関係をつくることを目的とします。

【どのように「げんき」を届けたいか】

外国につながりのある住民が、災害時に必要な情報や避難方法を理解し、自分や家族の命を守るために行動できるようになることを目指します。

また、ワークショップを通じて、これまで接点の少なかった外国につながりのある住民と地域住民が顔見知りになり、日常生活でも気軽に声をかけ合える関係を育みます。

さらに、地域住民が言葉や文化の違いによって生じる困りごとを知り、やさしい日本語を使った情報伝達や声かけなど、相手に寄り添った行動ができるようになることを期待しています。

こうした一人ひとりの意識や行動の変化を通じて、災害時に情報を得られず孤立する人を減らし、国籍や文化の違いにかかわらず、地域全体で互いの命と暮らしを守り合えるまちづくりにつなげていきたいと考えています。

【「げんき」をどのように確かめるか】

ワークショップの前後に、参加者に地域の避難場所を地図上で示してもらい、防災に関する理解が深まったかを確認します。

また、参加者同士が声をかけ合ったり、協力して活動したりする様子を運営スタッフが記録し、交流の広がりを確認します。

さらに、継続して参加した人の人数や、ワークショップをきっかけに家庭で防災用品を準備した人の人数などを把握し、参加者の行動の変化を確かめます。

「げんき」とは
人からまちへ、まちから人へと広がる前向きな
気持ちの変化・行動を「げんき」と表現しています。

【記入のヒント】

【事業の目的】
→事業の背景で記入した地域の課題や現状を踏まえ、この事業を通じて何を実現したいのか、どのような状態を目指すのかを具体的に記入してください。

【どのように「げんき」を届けたいか】
→この事業を通じて、参加者や地域に、どのような変化やつながりを生み出したいか記入してください。
・これまで参加していなかった人に、どんな一歩を踏み出してほしい？
・気持ちにどんな変化があるとよい？
・活動後に、どんな行動を始めてほしい？
・参加者同士にどんな関わりが生まれる？

【「げんき」をどのように確かめるか】
（確認する方法の一例）
・アンケートをとる　・声で確認する（参加者の感想、インタビューなど）・行動で確認する（継続参加が増える、参加者が運営側にまわるなど）・関係の変化で確認する（参加者同士や他団体との交流が生まれたなど）・活動中の様子で確認する（子どもが自分から動くようになったなど）・数字で確認する（参加人数、協力者数など）・記録で確認する（活動日誌、写真、成果物など）

事業の広報 について	（使用予定の媒体にチェック） ■チラシ・ポスター　□パンフレットなどの刊行物 □ホームページ　□Facebook　□X（旧 Twitter） □Instagram ■その他 SNS（　YouTube　） □市の広報紙　□市の広報掲示板　■口頭にて伝達 □その他（　）	
今後の展望 について ※団体としての今後の展望をお書きください。 **主な選考の視点** **「発展性」** **「自立性」**	当団体は、国籍や文化の違いにかかわらず、誰もが安心して暮らせる地域づくりに貢献できる団体へと成長していきたいと考えています。 現在は一部の会員が中心となって運営していますが、今後は新たな会員の確保や人材育成に取り組み、さまざまな国籍や年代の人が主体的に団体運営に関われる組織を目指します。 また、自治会や市民活動団体、関係機関との協力関係を広げ、地域の多様な主体と連携できる団体へと発展させていきます。 さらに、会費や寄附などによる自主財源の確保を進め、補助金に頼りきらず、安定して活動できる運営基盤を整えていきたいと考えています。	**【記入のヒント】** 今後、団体としてどのように成長・発展していきたいか、将来の目標や目指す姿を具体的に記入してください。
事業の実施体制 について **主な選考の視点** **「事業実現性」**	団体の構成員 7 人を中心に、地域住民やボランティアと協力して実施します。 【役割分担】 ・事業全体の企画・進行管理：1 人 ・ワークショップの企画・運営：2 人 ・広報・参加者募集：1 人 ・会計・活動記録：2 人 ・関係団体との連絡調整：1 人 ワークショップ当日は、構成員全員で受付、会場設営、参加者対応、安全確認などを分担します。 また、防災に関する知識を持つ地域の関係者に協力を依頼し、外国につながりのある住民にも運営への参加を呼びかけます。 各回終了後には構成員で振り返りを行い、参加者の意見や運営上の課題を共有します。	**【記入のヒント】** 会員内でどのような役割分担をしながら事業を進めますか。総括、会計、広報、庶務（資料作成や会場手配等）、外部との連絡調整など、事業に必要な役割とその従事人数を教えてください。 また、協力者や関係団体などがあれば併せて記入してください。 ステップアップ支援申請団体は必須

備考　「事業の実施体制について」欄は、市民活動ステップアップ支援補助金の交付を受けようとする団体は必ず記入してください。市民活動スタート支援補助金の交付を受けようとする団体は任意で記入してください。